

第4回「川の自然再生」セミナー開催報告



技術普及部 参事 土門 晋

1. はじめに

平成18年9月12日に第4回『川の自然再生』セミナーを開催したので報告します。

今回のセミナーでは、『川の自然再生』事業での順応的管理の重要性を踏まえて、将来の再生状況を予測し、管理方法を計画する参考となるように、テーマを『順応的管理の技術と方法』にして開催しました。

なお、本セミナーではこれまで3回にわたり各地の『川の自然再生』の情報発信の場として開催しています。第1回セミナー(平成15年)では今後の川の自然再生の方向性を示したセミナー、第2回(平成16年)は釧路川、円山川などの事例紹介を中心にセミナー、第3回(平成17年)では『合意形成』や『目標設定』をテーマとしたセミナーを開催しました。

2. 開催プログラム

今回の開催プログラムは次の通りです。

講演1	順応的管理の考え方	
	横浜国立大学環境情報研究院 教授	松田裕之氏
講演2	順応的管理の技術	
	国土技術政策総合研究所河川環境研究室長	藤田光一氏
講演3	荒川太郎右衛門地区自然再生事業の取り組みについて	
	国土交通省荒川上流河川事務所 副所長	原俊彦 氏
講演4	水生昆虫のDNA多型分析技術の河川環境整備への活用	
	東北大学大学院工学研究科 教授	大村達夫氏
	河川水辺の国勢調査の活用	
	国土交通省河川環境課 課長補佐	原田昌直氏
講演6	千曲川における事例	
	～栗佐地区における人為的インパクト・レスポンスの紹介～	
	国土交通省千曲川河川事務所副所長	上原信司氏
講演7	河川生態系のモニタリング手法	
	(独)土木研究所水環境研究グループ	傳田正利氏

3. 講演要旨

講演1では基本的な考え方、知床などの事例や自然再生事業指針(日本生態学会)などについて解説しました。順応的管理が不確実性に対する仮説検証型の管理方法であることを示し、実施後の継続監視を通じた検証(順応的学習)、状態に応じ方策を変える(フィードバック制御)という二重のループがあることを示しました。

講演2では、治水と環境の双方の目標達成に向けた事例として「河道掘削」を題材とした講演でした。事例は扇状地礫床河川(セグメント1)、自然堤防河川

(同2-1)における河道設計でした。講演では“緩めの”河道設計の実施により新たに「環境面の意義」を見出すことを示しました。

講演3から講演7では、事例紹介、生物などの基礎データとなる河川水辺の国勢調査の改訂、河川管理に活用できる技術に関し講演を行いました。内容の詳細は述べませんが、講演3では荒川太郎右衛門地区における順応的・段階的モニタリングの解説と試験施工の取り組み、講演4ではDNA多型分析技術を河川整備に活用する方法、講演5では平成18年度からの新マニュアルによる河川水辺の国勢調査の解説が行いました。その後、講演6では千曲川におけるインパクト・レスポンスの紹介として試験掘削によるモニタリング事例を示し、講演7では千曲川などで用いられている地理情報システム、野生動物追跡システム等の技術の概要とケーススタディを紹介しました。



質疑の様子

4. まとめ

川の自然再生事業は「失われた川と人とのかわり」を復活することが大切で、その管理方法である『順応的管理』には多くの人の関わりが必要です。また、事例紹介からは、対象とする生物の川との関係や生態学的な知見を得るには、まだ多くの時間がかかることが予想されました。そのため、このようなセミナーなどにより情報発信を図ることが、生態学的な知見の普及、多くの方の事業に対する理解や、効率的な事業実施に寄与すると考えられます。

なお、今後も当センターではこのような自然再生に関するセミナーや研修を開催していく予定です。ご案内は当センターHPの他、ARRNのHP(<http://www.a-rr.net/>)でもお知らせしています。

謝辞：本セミナーの開催にあたり、ご講演いただきました講師の方々にご参加いただいた皆様へ、お礼申し上げます。